

ISO/TC282 Water-reuse（水の再利用に関する専門委員会）第2回会議出席報告

概要：

国土交通省では、我が国の優位技術である再生水関連技術の国際展開にむけた取り組みを進めています。本会議は、SC (Sub Committee) 1（灌漑目的の下水処理水の再利用）、SC 2（都市における水の再利用）および SC 3（水再利用のリスク・性能評価）から構成されており、日本が幹事国として TC (Technical Committee) 及び3つの SC の会議を平成 26 年 11 月 3 日～7 日にかけてポルトガル・リスボンにて開催しました。

本出張では、これらの会議に専門家として国土技術政策総合研究所（国総研）下水処理研究室からは山下・川住の2名が出席し、日本の規格原案や作業方針等を提案、説明するとともに、他国からの提案に対する意見提示を行い、討議の上、決議を行いました。

出張内容及び成果：

1. ISO/TC282 について

下水処理水の再利用に関する基準や指針等については、世界保健機関（WHO）や日本（国土交通省）、米国（EPA、環境保護庁）を始めとする各国で策定はされているものの、ISO 国際規格は存在していません。そのため、イスラエルの提案により、まず 2010 年に ISO/PC253（灌漑目的の下水処理水の再利用に関する専門委員会）が設立されました。その後、日本において下水処理水再利用に関する性能・リスク評価方法について、また中国においては都市域での下水処理水再利用について国際規格策定にむけた動きがあり、2013 年にこれら3カ国の提案により ISO/TC282 が設立され（PC253 は TC282/SC1 に引き継がれています。）、イスラエルが議長国を、日本と中国が共同幹事国を務めることとなりました。TC282 の構成は図-1 に示す通りです。現在の幹事国は日本であり、国土交通省水管理・国土保全局下水道部流域管理官が国内審議団体を務めています。なお、TC282 の第1回会議は、2014 年 1 月に東京で行われており、SC2 と SC3 は今回が初会合です。2014 年 12 月現在の参加国は、Participating countries（積極的参加国）がフランス、カナダ、アメリカなど 19 カ国、Observing countries（オブザーバー国）が 18 カ国となっています。

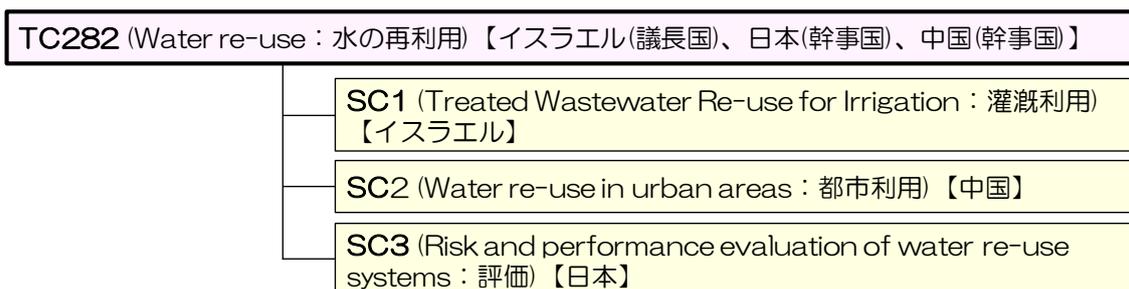


図-1 TC282 の枠組みイメージ

2. 会議内容について

今回の会議は、リスボン市内の Laboratório Nacional de Engenharia Civil (LNEC、国立土木研究所)にて、表-1 に示すスケジュール表のとおり 11 月 3 日（月）～7 日（金）の日程で開催されました。なお、LNEC では本年 6 月に SC1 会合が開催されている他、本年 9 月にはリスボンにおいて IWA（国際水協会）の IWA World Water Congress & Exhibition（世界水会議・展示会）が開催されたところです。

日本からは、国総研の他、国土交通省本省、関係研究機関、水関連の企業団体等から構成さ

れる代表団が出席しました。今回の出席国・人数は、日本、イスラエル、中国の他、フランス、カナダ、アメリカ、ポルトガル、エチオピアから合計約 20 名でした。

表-1 ISO/TC282 第 2 回会議スケジュール

日数	月日（曜日）	用務
1	11 月 2 日（日）	移動日
2	11 月 3 日（月）	SC3
3～4	11 月 4 日（火）～5 日（水）	SC1
5	11 月 6 日（木）	SC2
6	11 月 7 日（金）	本会議（TC）
7～8	11 月 8 日（土）～9 日（日）	移動日



写真-1 TC282 第 2 回会議の様子



写真-2 SC3 での日本の趣旨説明の様子

1) SC3（議長：（独）土木研究所・鈴木氏、幹事：（一財）日本規格協会・千葉氏（現・山崎氏））

日本より、SC3 で提案している 3 つの規格（健康リスク評価、水質グレード表示、性能評価）について趣旨説明を行い、それについて議論が行われました。議論の結果、今後、関係各国と協議しつつ作業を進めていくこととなりました。

2) SC1（議長・幹事国：イスラエル）

前述の通り、SC1 で取り扱われる「灌漑目的の下水処理水の再利用」については、2010 年から規格策定にむけた議論が進められています。今回は規格原案の具体的な記載内容について、対象とする用途・規模、水質項目、測定頻度の目安等について非常に活発な議論が行われました。

3) SC2（議長・幹事国：中国）

SC3 と同様、冒頭に中国から趣旨説明が行われました。SC2 では、都市域における下水処理水再利用に関する処理、輸送、貯留等について複数の規格策定が提案されています。今後、作業部会を設置し検討作業が進められることとなりました。

4) 本会議

最終日の本会議では、各 SC から審議結果について報告がなされ、これに対して特に意見は出されませんでした。また、TC282 で用いる専門用語の定義に関して、作業部会を設けて検討することが了承されました。

今後のスケジュールとして、次回会合は、2015 年 5 月下旬にカナダ・バンクーバーにて SC1～3 を開催すること、また、2015 年 11 月上旬に中国・北京にて本会議および SC1～3 を開催す

ることが決まりました。

3. おわりに

今後、国総研では、2017年度を目処に国際規格発行となるよう、関係国および国内の水再利用に関する産官学関係者と連携し作業を進めていく予定です。また、国総研が有する下水処理水再利用についての知見をISO/TC282における議論に反映させるとともに、特にSC3に関する分野については必要に応じて調査研究を行い、規格策定作業が円滑に進むよう協力していきます。

【参考情報】

- ISO/TC282 water re-use
http://www.iso.org/iso/iso_technical_committee?commid=4856734
- 報道発表資料（平成26年1月16日・国土交通省下水道部）
http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000228.html

以上